

◆リレー寄稿
～“ちゃんちゃんこ”が
結ぶ支援の絆



コープあいづ
理事長 荒井 信夫氏

コープあいづと原釜漁協は、県内4協同組合（農協、漁協、森林組合、生協）でつくる「地産地消福島ネット」のモデル事業として産直事業を行なってきましたが、東日本大震災で県内の漁業は大きな被害を受けました。

震災直後には縁のあるコープかながわの組合員さんからの見舞金の一部を活用させていただき、飲料水やカップ麺、ガソリン等を積み込んで、水産バイヤーと一緒に激励に行ったりしました。

その後コープかながわでは冬に向けて「手作りのちゃんちゃんこ」を被災者へ送ろうと「ちゃんちゃんこプロジェクト」を設置し作成してきたのですが、このたびその第1弾として「50着」届きました。

11月12日には、コープかながわの組合員さんの真心と一緒に“ちゃんちゃんこ”を届ける予定です。

未だに漁が再開できない状況ですが、1日も早い復旧に向け、今後も後押しをしていきます。

現地のニーズを細かく把握しながら支援

パルシステムグループ※とあいコープみやぎは連携し、3月末から被災地への支援活動を継続しています。女川町では依然、避難所生活を強いられる方が多く、10月13～16日、20～23日に炊き出し支援を行ないました。22日は、宮城県牡鹿郡女川町の女川第一小学校にて、炭火で焼いた230人分の国産牛肉や野菜、炊きたたのごはんにクリームシチュー、焼き芋などを提供しました。

被災地のニーズは、日々変化していきます。そのニーズに対応するには、支援者と現地の協力が不可欠です。パルシステム連合会執行役員の洪澤温之さんは、「あいコープみやぎは職員だけでなく、理事や組合員も常に同行してくれます。われわれだけで現地の情報を入手することは不可能ですから頼りになります」と話していました。パルシステムグループとあいコープみやぎはこれからも、生協ならではの支援を継続していく予定です。

※ パルシステム連合会および同連合会の会員生協・関連会社



あいにくの雨にもかかわらず、多くの人が並んだ。



肉は、(株)福永産業さんより無償提供。

来春に向け、球根を植えるボランティア実施



園芸の専門スタッフ4人が同行した。



植え方を教わる子どもたち。

10月26日、いわて生協では、保育園に球根を植えるボランティア活動を行ない、いわて生協ユニセフ委員（組合員）を含めた県内から28人、そして県外からの6人を含め、34人が参加しました。

この活動は、岩手県ユニセフ協会の主催で行なわれたものです。

この間、ユニセフでは、大槌町の大槌町保育園と吉里吉里保育園にプレハブの園舎を建てるなど、支援を続けてきました。

この日のボランティアでは、この2つの保育園に加え、おさなご幼稚園の計3施設に行き、花壇の草取りや来春に咲くチューリップや水仙の球根とビオラの苗を植えました。子どもたちも参加し、にぎやかな活動となりました。

岩手県ユニセフ協会では、この間、いわて生協と協力し、幼稚園、保育園におやつを届けるなど、さまざまな活動を行っており、今後も、継続した支援を行なっていきます。